



福道計第29号
平成19年5月7日

国土交通省道路局長 様

福岡市長



中期的な計画の作成にあたっての意見の提出について（回答）

陽春の候、貴職におかれましては益々ご清祥のこととお喜び申し上げます。
また、日頃から本市の道路行政に対し多大なるご理解、ご協力を賜り厚くお礼申し上げます。
さて、平成19年4月2日付け、国道企第114号「中期的な計画の作成にあたってのご意見の提出について（依頼）」につきましては、下記のとおりご回答申し上げます。

記

1. 重点化を進める上で特に優先度の高い政策

道路は、市民生活や都市活動を支える最も根幹的な社会資本であり、活力のある都市づくりを進めていくためにも、都市の骨格となる幹線道路や市民生活に密着した生活道路の効果的かつ効率的な整備を進めていくことが、ますます必要となっていると思います。

本市の道路整備におきましては、主要放射環状型道路ネットワークの構築を目指して都市計画道路等の整備を重点的に推進し、平成18年3月に国道202号福岡外環状道路と福岡高速5号線が城南区堤で接続され、九州で初の環状型道路網が形成されたところです。

しかしながら、今なお都心部や主要交差点において交通渋滞が発生し、また、交通事故の人口あたりの発生件数が昭和62年以降連続して政令市中ワースト1を記録するなど様々な問題が解決されていない状況であり、都市の活力を支える道づくりとして都市計画道路等の整備推進は今後も必要不可欠であると考えております。

一方、生活道路につきましては、日常生活に密着した歩道整備などの交通安全対策に関して、地域住民から多くの切実な要望が挙がっており、また、市民アンケート調査でも、歩道のバリアフリー化や夜道の明るさの確保等が今後の道路整備に対する重要な項目との意見が多く寄せられています。従いまして、住みよいまちを支える道づくりとして、市民ニーズに対応した生活道路の整備が今後も必要であると考えております。

さらに、平成17年3月に起こった福岡県西方沖地震では、道路が災害時の緊急物資輸送や救援・復旧活動のための重要な都市基盤施設であることを再認識したことから、防災上の観点からの道路整備も必要であると考えております。

また、今後の都市交通のあり方については、交通体系全般を見渡した上で総合的な交通マネジメントを策定し、道路整備に限らず直接的な公共交通支援等についても引き続き実施することが必要であると考えます。

これらの状況を踏まえ、以下の政策を重点的に実施することが必要であると考えております。

- (1) 渋滞対策など交通円滑化の観点から、幹線道路ネットワークの形成を図るため、都市計画道路等の整備を推進する。また、ボトルネック解消の観点から、踏切問題の抜本対策として鉄道の連続立体交差事業を推進する。
- (2) 公共交通支援を図るため、交通結節機能の強化として、駅前広場や駅へのアクセス道路等の整備を推進する。
- (3) 安全・安心な道づくりの観点から、生活道路の歩車分離や歩道のバリアフリー化、照明灯の整備、踏切での歩車分離等を推進する。
- (4) 街並み景観の向上、ユニバーサルデザインに即した道路整備、都市災害の防止等の観点から、無電柱化を推進する。
- (5) 防災の観点から、緊急輸送道路のネットワークの形成や耐震・老朽化橋梁対策、狭隘道路の解消等を推進する。

今後の道路政策には、上記の本市の実情を十分に考慮していただき、真に必要な道路の整備として必要な財源の確保を行っていただきたいと考えております。

2. 効率化を徹底的に進める上で重視すべきこと

公共事業費が抑制される中、効果的かつ効率的に道路事業を推進するため、事業の選択と集中を図る上で、以下の政策が特に重要であると考えております。

- (1) 事業の目的を明確にし、スケジュール管理を徹底するため、道路整備の計画を策定し事業を実施する。
- (2) 市民が必要としている道路が何かを的確に把握し、市民ニーズに対応した事業を推進する。
- (3) 用地買収の進捗が高い路線への集中投資を行い、早期供用による事業効果の発現を図る。
- (4) 道路施設の品質確保に配慮しつつ入札契約の適正化を行い、コストの縮減を図る。
- (5) 道路施設に対する適正な維持管理（アセットマネジメント）の推進により、効果的かつ効率的なメンテナンスを計画的に実施し、コストの縮減を図る。
- (6) 市民の道路への関心や愛着を醸成し、道路行政への地域の直接参画を図る。

3. その他、道路政策や道路の整備・管理全般に関する意見

(1) 公共交通機関に対する支援について

本市においては、主要放射環状型の幹線道路の整備推進により、交通の分散化、都心部の通過交通の排除を行い、市内の渋滞緩和・解消を目指した施策を進めているところです。また、自動車交通から公共交通機関への転換を図る観点から、交通結節機能を強化するため駅前広場の整備等を進めておりますが、交通渋滞などの問題は完全には解消されず今日に至っております。

そこで、今後の都市交通のあり方については、交通体系全般を見渡した上で総合的な交通マネジメントを策定し、道路整備に限らず直接的な公共交通支援等についても引き続き実施されますことを要望いたします。

(2) 道路施設に対する適正な維持管理（アセットマネジメント）を推進するため、補修系事業に対する補助制度の拡充について

高度成長期に急速に公共施設を整備してきた結果、今後施設の老朽化が進み、近い将来一斉に更新時期を迎えることから、その対策に莫大な費用が必要になることが懸念されており、本市も例外ではありません。

これに対しては、定期点検・劣化予測などに基づく補修などを計画的に行うことにより、道路施設の延命化・補修費コストの最小化を図るといった計画的な維持管理が重要であり、また防災上の観点からもメンテナンスの強化は必要であるとの認識を持っております。

従いまして、橋梁などの道路施設の適正な維持管理（アセットマネジメント）を推進するため、道路施設の計画的な補修系事業に対する補助制度の拡充について要望いたします。

(3) 既存高速ネットワークの利用促進のための新たな施策について

本市の骨格を形成する高速ネットワークについては、広域交流の支援、都市内交通の円滑化、災害時における輸送路確保等を図る上で重要な役割を担っており、その整備促進が重要であると考えております。

特に、環状型の高速ネットワークの形成に向け現在事業中である福岡高速5号線について、引き続きその着実な整備を要望いたします。

一方、本市西部地区から高速ネットワークを利用して都心部に向かう場合、2つの有料道路を跨ぐ必要があるため、市内地域間においてサービス水準に差が生じております。従いまして、既存高速ネットワークの利用促進・効率的活用・機能強化を図る観点から、当該格差を是正する新たな施策を講じられますよう要望いたします。